

〔新後撰和歌集四〕題しらず

雅成親王

けふといへば暮るもおそく彦星の行合の橋を待わたりつ、

〔玉葉和歌集四〕龜山院に奉ける七夕歌の中に

またれつる天の河原に秋立てもみぢをわたす波のうきはし。

安嘉門院四條

〔萬葉集八〕山上憶良七夕歌

牽牛之迎媛船已藝出良之漢原爾霧之立波、

〔萬葉集十〕七夕

彦星之川瀬渡左小舟乃得行而將泊河津石所念、

〔新撰六帖〕後のあした○織女

久かたの天の河とは明にけり妻をくりぶね今やいづらん

〔新古今和歌集四〕花山院御時、七夕の歌つかうまつりけるに、

藤原長能

袖ひぢて我手にむすぶ水の面にあまつ星合の空をみる哉
〔後拾遺和歌集四〕長能が家にて七夕をよめる

光俊

能因法師

秋のよをながき物とは星合のかげみぬ人のいふにぞ有ける

孟蘭盆

孟蘭盆ハ倒懸ト翻シテ死者ノ倒懸ノ苦ヲ救フノ義ナリ、即チ目蓮其亡母ノ爲ニ、七月十五

日ニ、衆僧ヲ供養セシ故事ニ依レルナリ、或ハ略シテ盆ト云フ、我ガ國ニテハ、推古天皇ノ十四年ニ、齋ヲ設ケシヲ初見トスベシ、朝廷ニテハ、十四日ニ清涼殿ニテ御拜アリ、又十五日ニ